

インターバンクの声（2014 年 10 月 31 日）

ドルの上値が重いとされながらも東京市場からロンドン市場に移る頃に 109 円 30 銭まで上げていたドル円相場は、さすがにニューヨーク市場が始まるまでの時間は一旦の利喰いから 109 円を割り込むレベルに押し込まれた。米連邦公開市場委員会（FOMC）もこなし、米第 3・四半期 GDP 速報値への注目度は今一つだったはずだが、出てきた数字が市場予想を超えたとあって再びドル買いとなった。ただ、この局面でのドル買いは 109 円 34 銭止まり。早いタイミングで個人消費が伸びていないとの解釈が市場を掛け廻ると再び 109 円割れの相場に逆戻りした。確かに GDP は予想よりも良い数字だったが、多くの参加者が直ぐに気付いた通り、住宅と消費支出の伸びが鈍化し始めており第 4・四半期の成長への影響が気になる。昨夜のニューヨーク市場は、ここからもう一度 109 円台へ戻すことになったが、材料は国内経済紙電子版の年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用比率変更に纏わる記事だ。国内株と海外投資比率の増加の威光は依然強力だ。数字は無難な想定になっているが、決めつけるのは禁物だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。